



P18

Monochrome Circus

Black Butler Anthology : Chapter of Circus



◆◆◆

九里もなか [栗もなか屋]

クロマメ [KM960]

サキ [舌状花]

なおきち。 [ぴんくのこねこ]

姫束級 [aria]

まだむ [TARAI]

向井燕 [Hallelujah]

有利亜裕子 [RaRa]

芳澤ばにら [チョコレートマカロン]



◆◆◆

WANTED IN DEVIL CASTLE



DEVIL-CASTLE.LIVEJOURNAL.COM

Support The Artists. Buy their Stuff.





なににより
アンタの役に立てないことが
悔しくてたまらなかった

なんつーか
昔のことなんスけど
思い出しちまって

俺、もともと
脚ダメじゃないツスカ
だから皆のように
身軽に動けなくて
いじけてて…



ダガー
どないしたん？
坊にヤキモチ？

せやけどかわいい
微笑みでしたなあ？

ヤキモチなんて
焼かないツスよ！

かわいいとか
余計です！



そんな俺に
道を教えてくれた

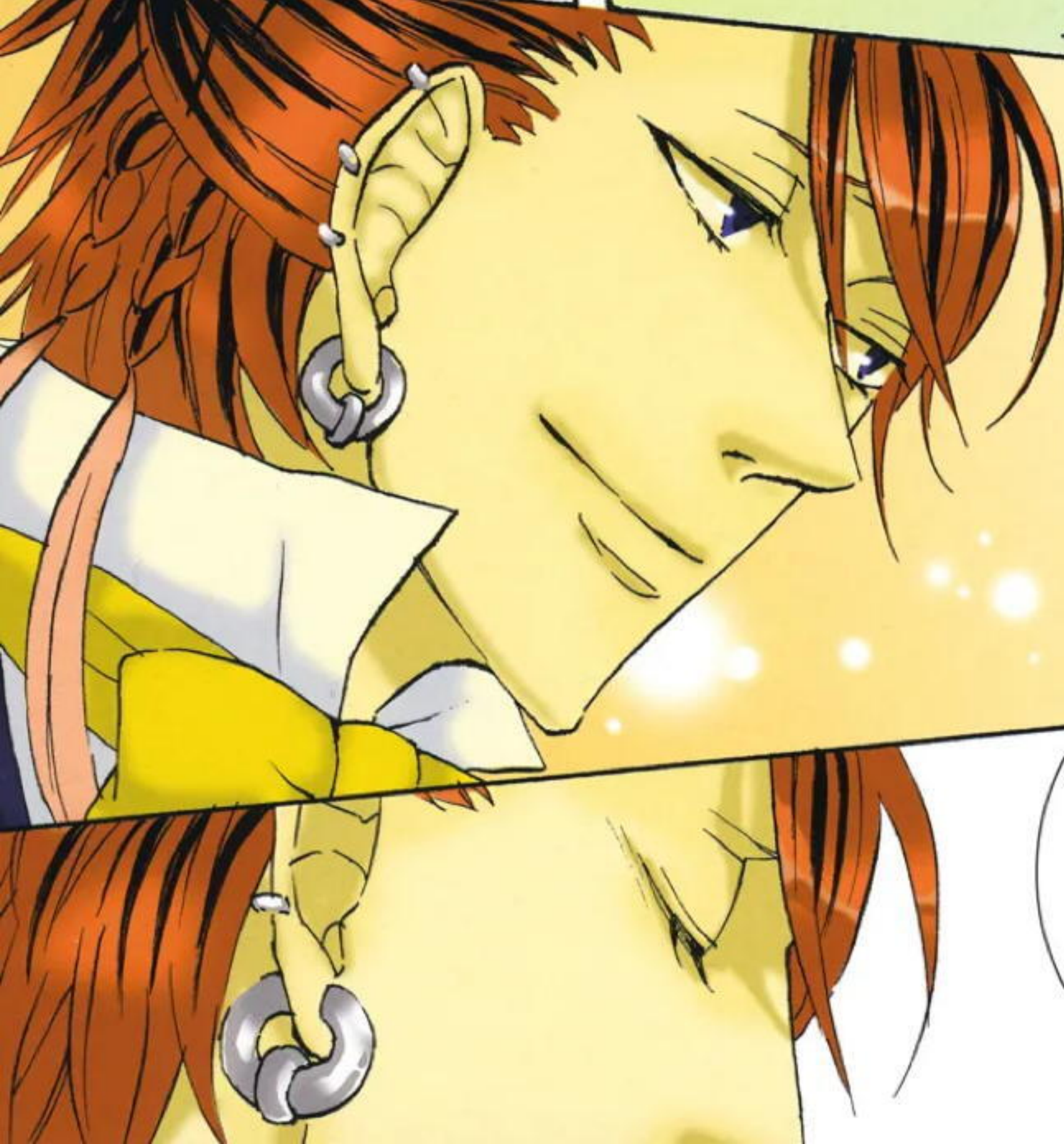


ダガー!
買い被りすぎ
ちやいますか?



俺はいつも
先輩に助けられて

伝えなきゃ
照れくさくて
ずっと言えなかった
あの時の俺の気持ち



ありがとう
ジョーカー

こんな楽しい日々が
毎日過ごせるなんて...
ずっと続いてほしいっスね

せやな



行こう



Over the hills and far away...



ギョッ



ココに来る前からの
知人みたいだけど
どこで知り合ったんだ？



なあ
お前らってさー



そ…それはっ

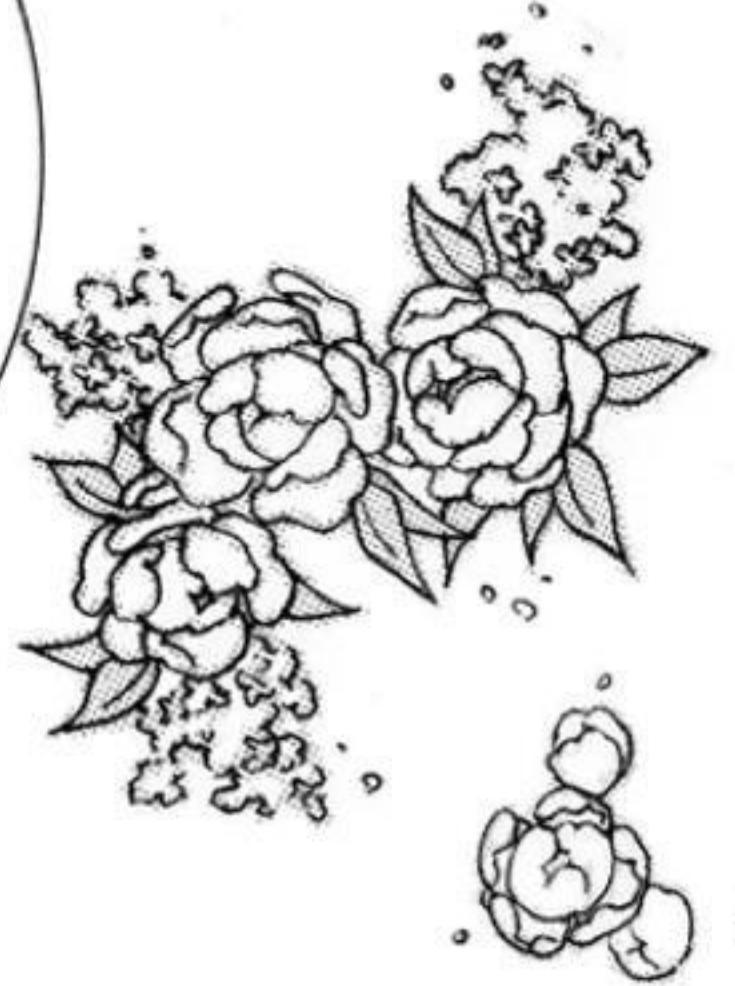
実は私達は
以前同じお屋敷で
働いていたのです



あー
なるほど

ええ 同じ主人を
持つものとして
私たちは出会い

そして
いつの間にか
恋に落ちて
しまったのです。



愛しています
スマイル

ですが、屋敷内での
使用人の恋愛はご法度。
私たちの関係を主人は
許すはずもなく

二人の蜜月も長くは
続きませんでした。

しかし愛しい人の手を
どうして離せましょうか

私たちは手に手を取り
慣れ親しんだ場所を捨て
やっとの思いでここまで
流れてきたのです……

僕もだ……

×イメージ映像です。

そ、そうだったのか！
苦労したんだな……

ええ
お蔭様でこうして
ふたりで過ごすことが
できております。

セバスチャン！



ここでは「ブラック」ですよ

イラッパ

屋間のアしは
どういうことだ！

ふんふん、ふんふん

僕とお前が
駆け落ち同然に
流れてきたなんて

うそをつくなら
もっとましな
ことを言え！

悪魔が大衆雑誌に
感化されるな！
それにあれは
男女の話だろうが！

そんなにカリカリ
せずに逢引に
集中してください

バカか！
今からするのは
仕事の話だ！

おや、今はああいう設定が
大衆に受けていると
書物で読みましたが

お仕事の前に
少し聞いて
頂けますか？

実は気に食わない
死神などと同室で
いささかやる気が
そがれておりました…

少しだけでも
ご褒美を頂いたら
やる気がでると
思うのですが

なっ…



待て!
ひ…人が来たら
どうするんだ!



セバ…っ



ひっ

んんっ

こんな
外で…!



大丈夫です
悪いようには
しませんよ



こら
「スマイル」

ブラックと
呼びなさいと
言ったでしょう?

んっ

やあ



ご褒美も頂きましたし
詳しいお話をしましょうか

昨晚テントの
とこで…

落ち合っていた
ところを
見られたか！



捜査の話が聞かれて
いたとしたらマズイ
ここで消すか
それとも…

その…



恋人同士って
本当だったんだな！

フラックは姐さん
狙いだと思って実はまだ
疑ってたんだけどさー
昨日、お前らがイチャ
ついてるの見て
超安心した！



俺、お前のGJを
応援してるからー
幸せになれよ

見事に誤解して
くださったって
よかったですね

あんな恥
見ら

いざと言うときに
上手く人の目を
ごまかせる
良い設定付け
だったでしょう？



いいわけ
あるかー！

立場を疑われたほうがマシだー！

おかし

スマイル!

は

いすか

アンタさ
ブラックと仲良かったよ
ねちよつとアイツ
なんかかしてくんない私
が言っただけで聞く耳持
っちゃいないんだからホ
ント腹立つわ

姉貴、
顔怖えよ

SMショータイム

芳澤ばにら

スマイルからも
ちよつとなんとか
言っといてくんない!?

ベティの
餌やり当番!

アイツ又勝手に
代わってたのよ!

しかも檻に頭突っ込んで
かじられてたんだってさ

ブラックが
何か...?

あのカ
バ...



駄犬の躰が
なっていないと
苦情が
あったんでな

躰直し、だ

で？

これは一体
何の遊びですか？



だいたい貴様は
ベイベイベイトと
虎の尻ばかり
追い回して…

目障りだ！

ぷぷ

ぷぷ

はあ…

まー
ヤキモチか

しかし坊ちゃん

鞭打っただけ
では躰は
出来ませんよ？

ニヤ



愚問だな

これは打つ為
じゃなく為

坊ちゃん!?

ふあっ

こうやって

辨る為に
使うんだよ





……まったく

こんな悪い遊び、
どこで覚えて
こられたのやら

さあ？

ちやんとマテが
出来たら、
もっと色々な事して
遊んでやるよ

セバスチャン
駄犬

↓
次の日↓



ほらブラック
ピースト先輩に
ごめんなさいだ

有難う御座いました
貴女のお陰で貴重な
体験ができ

ブラック

ズミナサイ

きもい……



よっ？
お屋敷の……

深層書



犯罪ですね。



お宅のクズ派遣員には
負けますよ



悪趣味な…

あんな小さい子供…



あんなオカマの。

全く…
どこが良いんでしょうね



…オカマの良さ？

あるわけないでしょう！



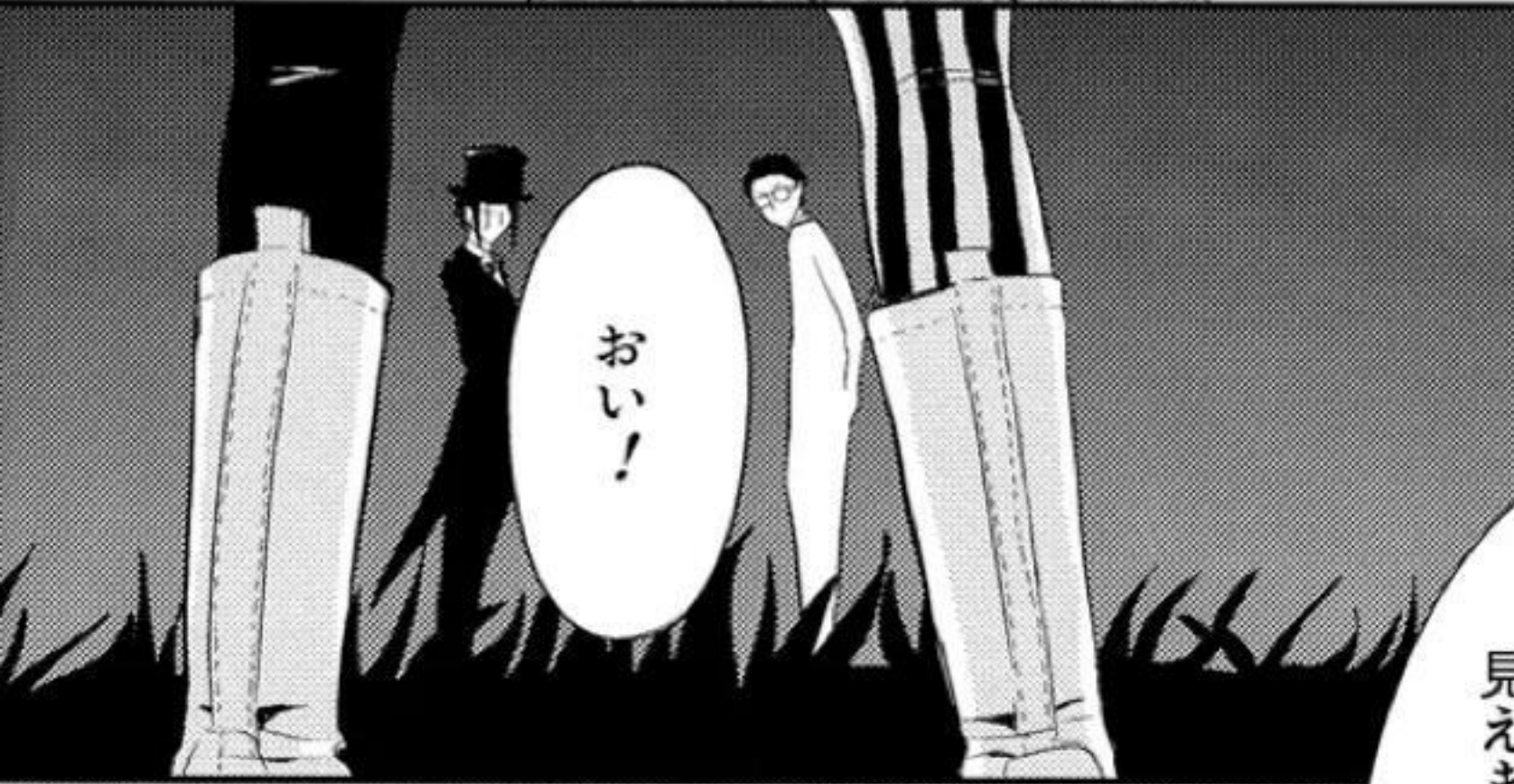
ですがうちの坊ちゃん
なんてあの若さで
●●●がとともお上手なんですよ

しかもローリングつきです

まだ体が柔らかいので
どんな体位もお手の物

全く…

どこまでも私の心を
捕らえて離さないお方です…



おい!



貴様ら相撃ちで死ぬ。

坊ちゃん…!!

ローリング…

しかしそんな高級品には
見えませんが…

なるほど…



おまえ

楽しんでるだろ

お似合いですよ
坊ちゃん

おや
わかりますか？

露骨だ

ですが…状況、では
いいいませんよ

貴方のお召し物を
替えるのは
私の楽しみです

普段と違う
お召し物ともなれば
致し方ないかと

オマエのイイ
玩具
というわけだな

そうは思つて
おりませんが

愛でる

愛でる思いは
否定出来ませんね

…ね

ものは
言い様だな



ドロドロですね
…此处

…ん、う
…うあ



…

…ん、う
…うあ

ね

!

ああ
…顔も

言いザマだ



…全く
悪戯が
過ぎますよ

…ん





…どつちがだ

…オモチャにしてるくせに。





みな沈黙は嫌いと言うけれど

有利亜 裕子

笑顔には三種類あることを彼は知る。心を解きほぐした笑みと、心で警戒した笑み、そして虚無の笑み。その境界線は極めて不鮮明で、その存在すら知らない者も大勢いる。もしかするとその方が幸せだったかもしれない、と彼は考える。

消灯時間になると、ジョーカーはひとつひとつのテントを見て廻る。一軍から二軍のテントをくまなく覗いていき、灯りが点いていればおやすみを言い合い、灯りが消えていけば起こさないようそこにいることを確かめてからテントを出て行く。道具を積み上げた裏方では、ランタンで細部まで点検し火の気がないかを確かめる。時折、野良猫や野良犬が紛れ込んでいることがあるが、追いつかない代わりに餌もやらなかった。与えたところで、死ぬまで面倒をみてやる自信がなかった。

自分のテントへ戻ると、寝衣に着替え演目用の化粧を落とし地毛に編みこんだヘアークステンションを外し、やっと一息つく。養父への報告用に手紙を書くと、骸骨型の義手を外してベッドへ潜り込んだ。灯りを消し明日起きたらやらなければならぬ事柄を整理していると、いつしかまどろみが訪れる。彼はいつものように、その心地よい眠気に身を委ねた。

まどろみの中へ落ちていくと、身体を何かがねっとりとい回っている感触がした。シート越しに冷たさが伝わり、動くたびに衣擦れの音がかすかにしている。



なんとも気持ちの悪い夢だ。これじゃ、道化師やのうて蛇使いやないか……

そこまで考えて、ジョーカーはハッと目を覚ました。驚きのあまり、この状況に応じた上手い言葉が見つからない。一瞬たちの悪い夢かとも思ったけれど、夢にしてははっきりとしすぎている。

「なんや夜這いか……。えらい色気のあることするな」

目の前には無表情のスネークがいた。ベッドへ上がりこみ彼を組み伏せ、白い首に巻きついた二匹の蛇と共にこちらを覗きこんでいる。

「……ずっと待ってたのにいつまで経っても来ない。つてゲ―テが言ってる」

スネークは聞き取れないほど小さな声で呟いた。ジョーカーは呆れたようにため息をつき、起き上がってまたため息。「待ったって、なんか約束しとったか？」

「……ウエンディにデザートあげた」

ベッドに両手をついて前のめりなつたスネークは、ガラス玉みたいに色の薄い瞳でじっと見ている。その意図を感じ取ろうと見詰めれば見詰めるほど訳が分からなくなってくる。鎖骨でうろろろしているゲ―テの方が、まだ表情があるくらいだ。

「ピーストは頬にキスした。ダガーとは散歩してた。ドールには頭撫でてあげた」

つてワイルドが言ってる、と例に漏れず付け加える。意味が分からずしばらくぼかんとしていたが、頭の中で謎が解けるとジョーカーは噴出して笑った。それは全て、今夜彼自身がメンバーにしてまわった労いだ。

笑いが治まると沈黙。スネークはこちらの出方を待つように何も喋らない。ゲ―テだかワイルドだかが、蛇に相応しい鳴き声を上げた。

「お前よう観察しとるなあ……。なんや、声かけんかったから拗ねとんのか」

目を逸らした白い頬を指の裏で撫でようとすると、ワイルドだかゲ―テだかがそれを阻止するように伸びてきた。

「ああ、すまんかったなあ、お前やのうてゲ―テやったっけ？」
からかうようにくすくす笑ってそう言うと、ゲ―テらしき蛇が彼の指に噛み付いた。スネークはうつむき上目がちに彼を見ている。なんの表情もないのにその瞳は彼を責めているように見えた。

「あーあ、俺の命日今日やな。明日っからオープニングどうしよっか」

「私は毒を持ってない、ゲ―テは持ってるけど。つてワイルドが言ってる」

「そりゃよかった」

ワイルドが離れた指を差し出すと、スネークは舌を出しその傷口を幾度となく舐めた。薄く冷たい口唇で挟み時折ジヨ

カーを伺い見る。

「素直にかまうて欲しいと言や可愛いになあ」

何の気なしにそう言うと、スネークはしばらく顔を覗き込んだ後、胸板を押してジョーカーをベッドへ倒した。胸元と首筋をのろのろと移動していた二匹になにやら嘸くと、彼らは意思を持ってジョーカーの身体へ降りていく。左腕と義手を外した右腕に到達すると、まるで拘束するように絡みついた。

「おいおい、縛り上げてなんするつもりや？」

スネークはその声を無視してジョーカーの寝衣をめくった。下腹部に顔を埋め片手で持ち上げ舌を這わす。吸い上げ先端を刺激し睾丸を揉み解すと徐々に硬さを増していく。スネークはまた彼の様子を伺うようにちらちらと見上げる。

「お前はほんま……、おねだりが上手やなあ」

すっかり形が変わってしまったと、そろそろ解いてくれんかと腕に巻きついた二匹に言った。スネークがぼそぼそと口元で呟くと、ゲートはシートを伝って彼の元へ戻っていく。ワイルドはサイドテーブルから骸骨型の義手をくわえると、ジョーカーの膝の上へ置いた。

「かっこいい子やな、ワイルドやったつけ？」

彼は微笑みかけながら義手をつけると、その指先で蛇の頭を撫でている。腰を屈め口唇を寄せていると、スネークが咄嗟にワイルドを奪い取った。顔を隠すようにうつむき、胸の

中に戻ってきた友を何度も撫でる。

「なんや……、俺に嫉妬してんのか？ それともそいつに嫉妬してくれてんのか？」

色素の薄い髪を撫でると、ジョーカーは彼に口付けそのまま後ろへ倒した。二匹は目を閉じ割れた舌をちらつかせながらベッドを降りていく。衣服の中に義手を忍び込ませ、うろこのついた肌を露わにすると、すぐにベルトを解いて中心を撫でた。そこはすでに何かを期待するように立ち上がり打ち震えている。

「ええ子やな、スネーク」

左の指を差し出すと、彼は無言のままそれを口に含む。舌を這わせ吸い上げ唾液で濡らす。ジョーカーはそれを引き抜くとひくつく後孔へ押し当てた。

「んんっ……！」

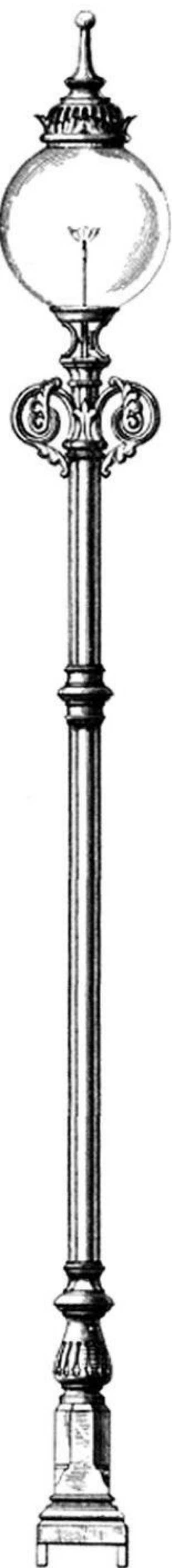
様子を見るように中指を侵入させるとすぐにひとさし指を押し込む。スネークは突然の異物感に思わず首を反らす。

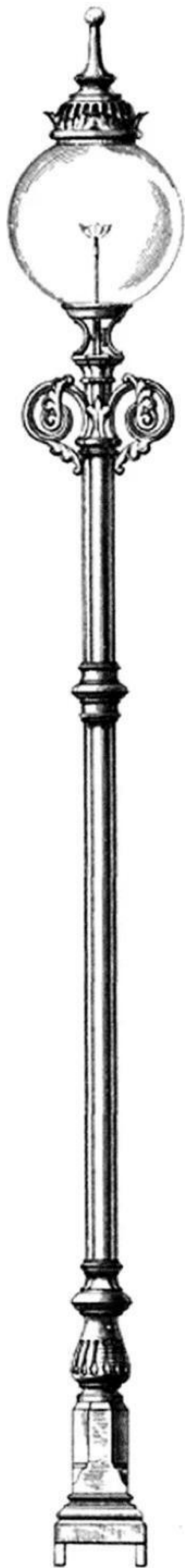
「黙ってないでなんか言いや。盛り上がりらんやろ」

驚いたように締め上げる内部を擦り何度か抜き差しすると、腫れたしこりを指の腹で撫でる。すると大人しく寝転がった白い身体はびくびくと震え出す。

「……！あ……っ！」

「スネーク、お前ひとりで啼いてみる」
いつになく真剣な声でそう言うと、遊んでいた指を引き抜





き、熱く滾った杭をなんの遠慮もなく打ち込んだ。

「やあ……っ！やめっ……！」

「ちゃんと啼けるやん」

「え、えみり……、が……っ！」

エミリーは女の子やしここにはおらんやろ、と言いかけて飲み込んだ。そんなことは今はどうだっていいことだ。何も言わず黙っていることの方がたちが悪い。

ジョーカーは腰を退くと、じわりじわりと味わうように根元まで押し込んでいく。徐々に速度を増していくと、肌がぶつかる音がするほど強く打ち付けた。白い身体の体温が上がっていく。恥らうように目を伏せ、左手に顔を寄せ縋りつく。まるでなにかの救いを求めるように。

「ええ子やなスネーク……、ええ子や」

スネークはその声に応えるように、背を弓なりにして達していた。ジョーカーもまた一際きつい締め付けに引きずられるように達してしまおうと、内部へ熱い迸りを走らせた。

「……疲れたって、……ゲータが、言ってる」

「はは……、なんやそれ」

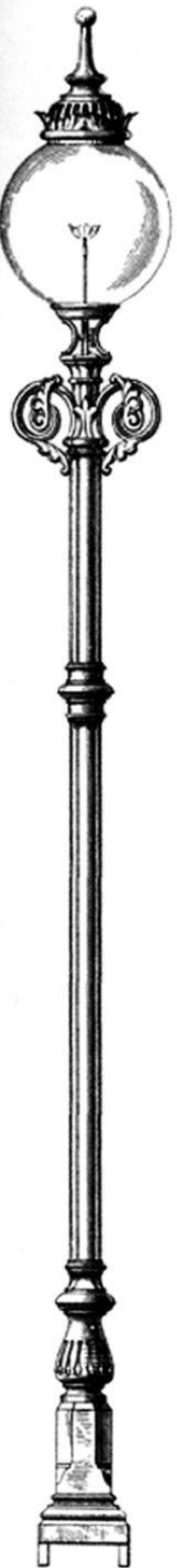
サーカステントはここ数日、開かれていない。辺りは騒がしく、団員達は皆言い合わせたように困惑している。

スネークは友を首に巻いて、行く当てもなく歩き続けた。一軍のテントはどこもひっそりとし、物音も人の気配も感じない。皆は一体どこへ消えてしまったのだろうか。

一軍と二軍の境目へ来ると、彼はある夜のことを思い出した。上等な黒いコートを着た新入りが立っていたのはこの辺りだ。人ではない、とゲータは告げた。またしても人ではない何かが入り込んでいる、とワイルドは続けた。ご親切にどうも、と言ったその男は、驚くほど虚無の笑みを浮かべていた。

スネークはここへ来るまで人の笑顔を忌み嫌っていた。友のふりをした主は彼の首筋へ巻きつき、蛇にも人間にもなれない半端者は己の意志など持つな、と忠告され続け、その結果洗脳された。しかし、ダガーもピーストも、ドール、ピーター、ウエンディ、ジャンボも皆、心を解きほぐして笑ってくれた。皮肉にも、スマイルという名の新入りは終始心で警戒した笑みだったのを思い出す。そういえば、スーツは一度も笑わなかったな。

ジョーカーは、赤い目をしたニューフェイスと同じように、いつでも虚無の笑みだった。



笑顔には三種類あることを彼は知る。心を解きほぐした笑みと、心で警戒した笑み、そして虚無の笑み。

その境界線は極めて不鮮明で、その存在すら知らない者も大勢いる。もしかするとその方が幸せだったかもしれない、と彼は考える。

「……ひとりは寂しい」

スネークは震える声でそう呟いた。

End



おや、
お邪魔でしたかな？
ケルヴェイン男爵

私の今のパトロンの
ケルヴェイン男爵は
おとぎ話の世界に
住んでいる

白々しいな
ドクター
ずっと覗いていて
何を言う

これも気を失ったから
ちようど
終わりにしよう
思っていた所だ

ジョーカーも
普段はしっかり者なのに
ベッドの上では
まるで別人
なんだな

欲しいか？

一回くらいは
僕もイイ夢
見させて欲しい
ですね

ハハハ！



これは僕のだから



駄あ目だよ!



…男爵は
シエル・
ファントムハイヴを
お望みなのは?

そうだよ
僕の望みは彼に
あの時の皆と同じに
美しく惨殺して
もらうこと



ジョーカーは
その為の
僕の兵隊だ

その為だけに
ドブから拾ってずっと
育ててきたんだ

僕だけの命令を聞き
僕だけに体を開き

僕の存在無しでは
いられないように

身も心も
依存させた

僕だけの
可愛い
人形の兵隊だよ

歪んだ彼の
おとぎ話の中では

なら、
そんな健気な、生きた人形は
貴方が死んだ後は
どうするんですか？

……ん

おもちゃの
しっかり者のスズの兵隊は
踊り娘と引き離されて
ビックリ箱の中の子鬼に
捕まってしまった

なあに、



!

だから
スズの兵隊は踊り娘と
一緒に添い遂げられず

ジョーカー
君も一緒に死ぬんだ

僕が死んだら



出来るよね



ジョーカー

…はい、お父様

うん、とても
いい子だ

燃え盛る炎の中
幸せな死も
迎えられなかった



スマイル
可愛いだけじゃ
サーカスは勤まりまへんえ

芸ができへんとな

大丈夫ですよねえ
スマイル？

んま

んま

んま

◆◆◆面接◆◆◆

なおきち。

ほら

ここで何が
得意なのかを
アピールしておかないと

ん？
何ができるんや
スマイル？

ぬちっ...

お口を使うのは
私との練習の成果もあって
お上手になってきたんですが...

こちらがよくなっていると
集中出来なくなるのが問題ですね

ぬちっ...

んまぶに

Visita

そこんとこ問題どすなあ

どっちも上手に
使えるようにならへんと

ま

これからゆっくり
時間かけて教えて
いったるさかいな

ブルッ

ぬぶ...

んんん

ぬぶ...

よかったですねえ

スマイル

end

ドール
スマイルと同室に
なったんだって？

つてワイルドが
言ってる

たぶんそういう趣味はない 久里もなか

そうだけど？

それが何だ
スネーク

男の子と同室なんて
危険よ！
男は狼なんだから

つてエミリーが
言ってる

スマイルは
いい奴だぞ



あいつには
 かかわらない方がいい
 ……つてゲータが
 言ってる



だいち
 あんな弱っちいのに
 何ができるんだよ



お前
 もしかして

スネーク……



こそ
 ワーズワースが

ジョーカーに言つて
 部屋変えしてもらった
 方が……



ち違う
 誤解だ！

こそ
 スネークが言つて
 ……あ！



スマイルと同室に
 なりたいのか？

悪いな

お嬢さん

これが

ファントムハイヴの
使用人だ

オンナの戦い！ 久里もなか

カミィン
お嬢さん



うんー

アンタ
誰よー？

なんで
セバスちゃんの気が
出てるワケ？

セバス？ああ
ブラックの事？

ブラックなら
昨夜
アタシのベッドで

一晚
一緒に過ごした
わよ



このオカマ
どういう意味よ

嘘つくんじや
ないわよ
アタシのセバスちゃんか
あんたみたいなの女に

悔しい
魂刈つてやる

何すんの
離してよ

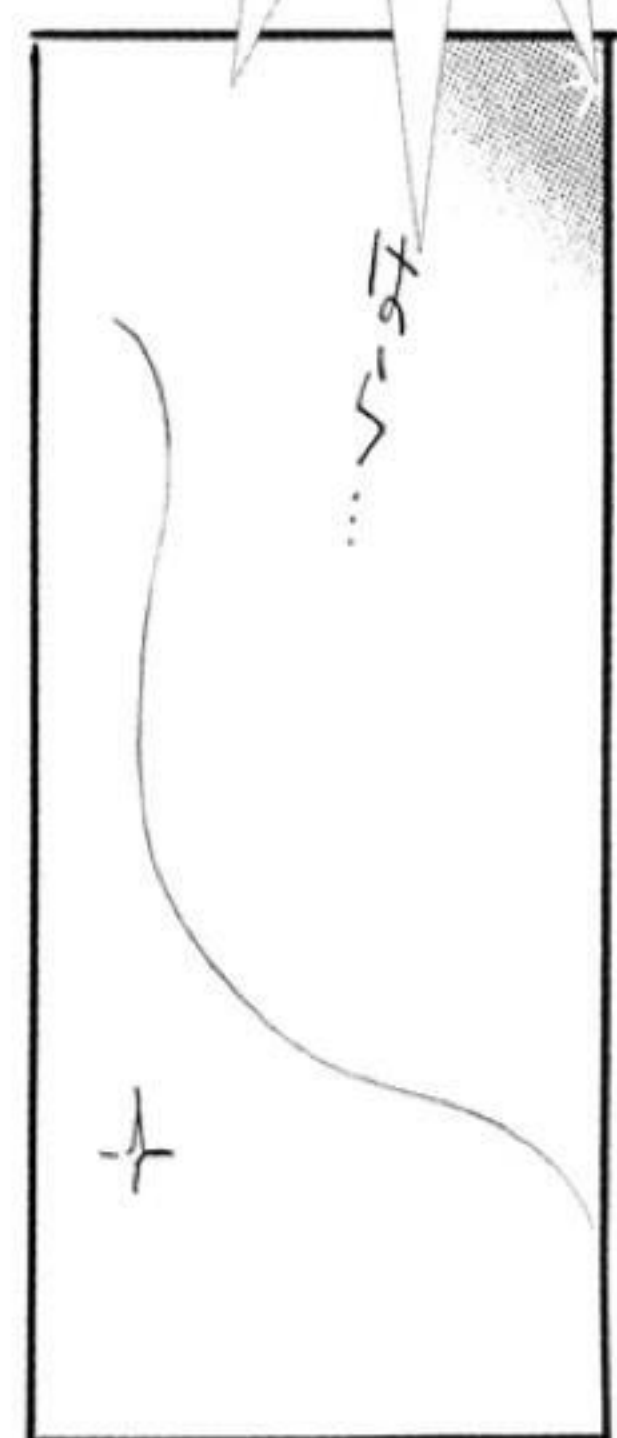


なんですつてえ〜？



・・・これは

戻ってこなくて
正解でしたね



あ〜〜〜



ウィルス

見てみて

どう〜？

この衣装

なんですか
その格好は
はしたない

どこのサーカスの
猛獣使いのようですよ

何を
するんですか
勤務中に

今夜はこれで
ウィルスを調教
しちゃうわよ

俺の先輩に
触らないで下さいよ
サトクリフ先輩



ちよつとロナルド
俺のつて何？
ウイルはずっと前から
アタシのダーリンよ
横から割り込まないで

愛に時間は
関係ないつよ
問題なのは
テクニクじゃないすか
ね？先輩

この際だから
はつきり決めて
下さいよ

何を
言ってるんですか
あなたたちは



—で
どっちが
よかつたつすか？

アタシに
決まってるわよね？
ウイル

えっわかんない？
じゃあもう一回
いつか？



ちくししょう
あの赤い
変態オカマ

今度会ったら
ベティのエサに
してやるう

END





こんな衣装で
愛想を振りまいて

夜中に害獣が
うろろうして
ろくに
眠ることも
出来ず

思い出しても
実に忌々しい

仕事だとはいえ
かなり屈辱的でした

それって
パ：パジヤマ……っ

※妄想です。

先輩！

ってことは悪魔に
パジヤマ姿を見せた
ってことスか！

俺も
見たいつス

あなたは
どさくさにまぎれて
何を言っているんですか

同室？

何もされてない
っスよね？
先輩は純潔で
いてくれな
帰れ！

あの害獣と同室だったなど
思い出したくもないので
これは処分しようかと……

end…?

サーカスアンソロ発行
おめでとうございます!

お誘いいただきましてありがとうございました!
サーカス編はキャラウケも話も大好きなので、何も描こうか
ドキドキしてたんですが出来上がった原稿は露出狂な
主従でした、……おや?
びーしてこうなった!のクオマメでした。



<http://km460.hiho.jp/kmtop.html>

お誘い頂きありがとうございました!

スマイルは凄く鞭が
似合いそうだなーと思って
いるのですがいかがでしょうか。
びしびしぶって欲しいです!

BY 考澤ぼにら@DM
<http://tatumi.kt.fc2.com/>



サーカスアンソロ発行
おめでとうございます。

サーカス編アンソロ
発行おめでとうございます!!

大好きなもなか様の御本に参加させていただけて
幸せです!!
サーカス編は印象深い章だったにも拘らず、
何故あのジーンをチョイスしてしまったのか自分でも
謎なまま描き終えておりました。
愛は籠っておりませんのでどうかお許しを……!!

それでは楽しいアンソロに参加させてくださり
有難うございました!

舌状花
サキ

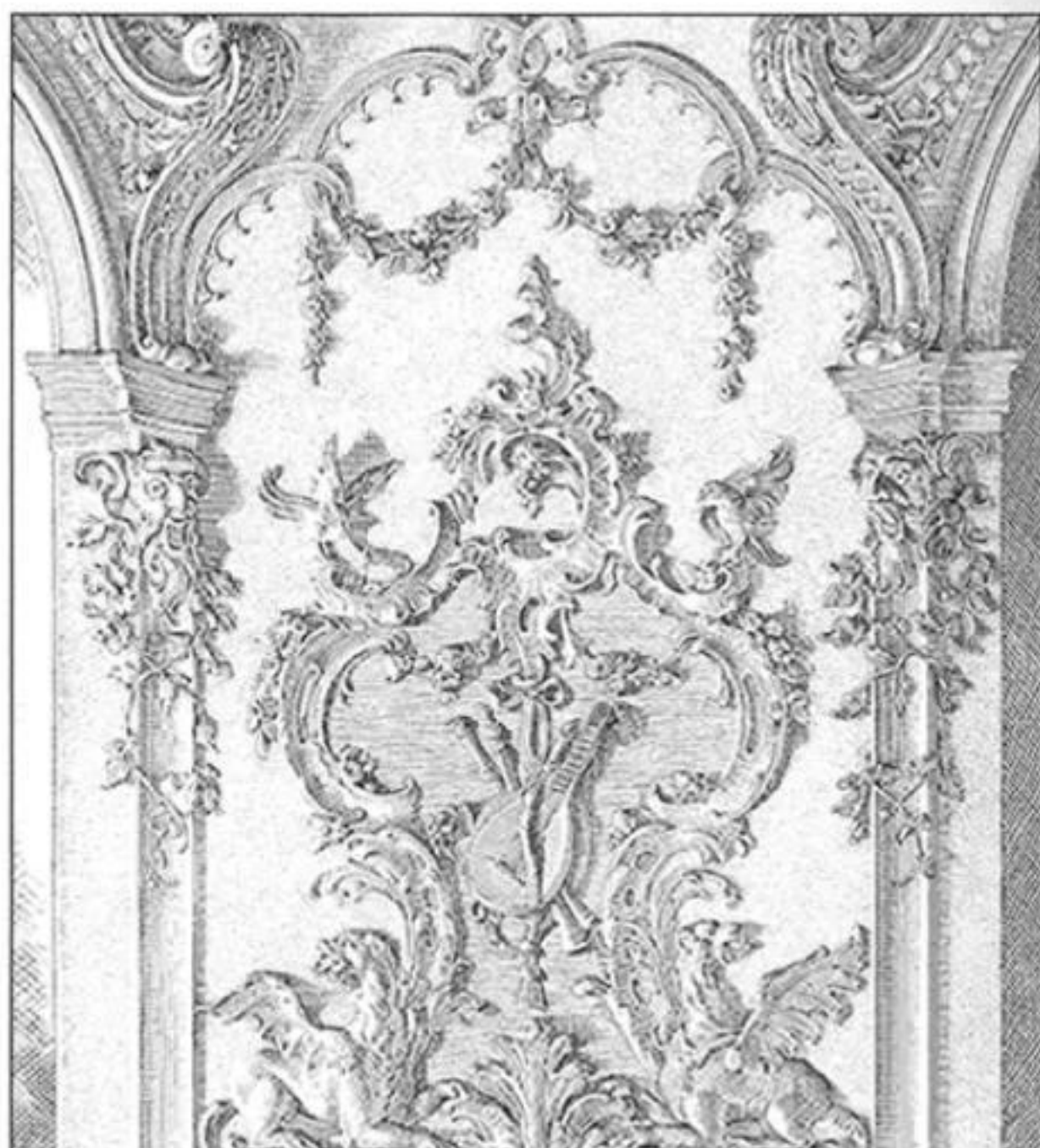
<http://zetsujoka.jugem.jp/>

お誘い頂きありが
ございました!

aria.姫東様

<http://id48.fm-p.jp/26/ariaorigin/>





お招きいただきありがとうございました。
今後もしもスネークの謎が明かされることがあっても
まあ、あの時はまだミステリアスだったよね、と
スルーしてやってください……。

有利亜 裕子【RaRa】
www.masterworks.sakura.ne.jp

MONOCHROME
CIRCUS



サーカスアンソロ発行
おめでとうございます

サーカス関連なら何でもいいですよ～！
という太っ腹企画だった為大好きな
ケルヴィン（第30話ヴィジュアル）男爵
を描かせていただきました。とても
楽しかったです！

他の方々のサーカスの面々の作品を今から
とても楽しみにしています。

まだむ





執筆者 (敬称略)

姫束級	・・・	3
向井燕	・・・	4
クロマメ	・・・	7
芳澤ぼにら	・・・	13
サキ	・・・	17
姫束級	・・・	21
有利亜裕子	・・・	25
まだむ	・・・	31
なおきち。	・・・	35
九里もなか	・・・	30,37
向井燕	・・・	44



編集後記

お疲れさまです。ここまで読んで頂き誠にありがとうございます。
編集を務めさせていただきました栗もなか屋の九里もなかです。
黒執事サーカス編アンソロジー、いかがでしたでしょうか？
編集している間、あまりの豪華さに何度目がくらんだかわかりません。
執筆者の方々、お忙しい中素晴らしい原稿を寄稿していただきありがとうございました。
ずっと読みたいと願っていたサーカス編作品を、こうして形にすることができて本当に幸せです。
ご協力いただいた方々、手にとっていたいただいた方々に心から感謝いたします。

九里もなか

こんにちはー。向井です。

「サーカスの本が読みたい」という気持ちで突っ走ったら
素敵な執筆陣の方々とご一緒できて、めっちゃ嬉しいです！！
キラキラときらめくサーカスの世界感たっぷりの1冊になって、
個人的にはカラーでジョーカーが描けて本当に充実しました。
サーカスのメンバーももっとたくさん描きたい気持ちも残しつつ…ですが、
死神ちゃんたちはもっと今後の活躍にも期待です！

もなかさんと表紙も描かせていただいて、
企画・編集でたくさんお世話になりましたが、また一緒になにか出来たら嬉しいです。

ではまたお会い出来る機会に一！

- 奥 付 -

発行日 2009年12月29日
発行所 松本コロタイプ光芸社様

発行人
Hallelujah & 栗もなか屋

連絡先

<http://www1.cnc.jp/hallelujah> [Hallelujah]

<http://www.geocities.co.jp/Playtown-Spade/2961/> [栗もなか屋]

禁・無断転載

Please do not use any of these images on this book without permission.

